



伊達政宗甲冑肖像 仙台市博物館蔵



武田信玄像部分 山梨県立博物館蔵



徳川斉昭肖像 幕末と明治の博物館蔵

目 次

① 展示紹介 特別展「肖像画の魅力—歴史を^{とき}見つめた眼差し—」

② 収蔵資料紹介

會澤正志齋父母の遺言状

道路航空写真（空中写真）

—昭和 50 年前後の県内主要路線の上空撮影写真—

③ 東日本大震災による当館の被災と復旧

④ トピックス

特別展「肖像画の魅力―歴史を見つめた眼差し―」

平成24年2月11日（土・祝）～3月20日（火・祝）

歴史上の人物の容姿を描いた肖像画は、現代の私たちにとってその人物をイメージする上で欠かせないものとなっています。古来、日本では似顔絵など像を写されることをよしとしない風潮がありましたが、像主の面影を描き伝えたいという思いから、生前に描く^{じゆぞう}寿像や没後に描く^{いぞう}遺像が作られてきました。また後世に物語や伝説などからイメージして絵師が描いた歴史的人物画（想像画）とよばれる作品が作られました。

江戸時代も半ばを過ぎると肖像画の像主、描き手、表現方法に変化があらわれます。特に「絵師」以外の者が描いた肖像画は、中国や西洋の技法が導入され、より写実的な方向に向かいます。幕末期から明治にかけ写真機の技術が入ってくると、絵画と写真との新しい関係が成立します。写した写真をもとに絵画を描くという方法です。

本展では肖像画が描かれた意味を考えるとともに、特に近世期の肖像画制作における技法に着目し、その表現方法の源泉を明かそうと試みました。肖像画自体が歴史の流れを見つめながら今の私たちに投げかける「肖像画の魅力」を感じ取っていただければ幸いです。

以下、主な内容を紹介します。

第1章 肖像画とは何か一つくられた姿と描かれた生きざまー

肖像画は大きく分けると死後に描かれた遺像と生前に描かれた寿像・^{にせえ}似絵・^{ちんぞう}頂相と分けることができます。日本の肖像画の多くは遺像です。それは生前に肖像をつくと良からぬ事が起こると考えられ、忌み嫌う風潮があったからです。

かつて、肖像画の像主に誰もがなれたわけではありませんでした。日本では^{がんぽう}顔貌を主体に描きましたが、絵師は注文主にあえて似せずに、理想化された尊像を描きました。身分制社会の中で、制約された条件の下で制作していたものと推察されます。ここでは、頂相・僧侶の肖像、茨城ゆかりの肖像、徳川家の肖像を紹介します。



武田晴信（信玄）像
高野山持明院蔵（和歌山県）
^{じみょういん}

第2章 水戸藩ゆかりの肖像画ー顔を残すとは、見つめた歴史を残すことー

江戸時代、大名の肖像画はどうだったのでしょうか。お抱えの御用絵師たちによる肖像画が多く作成されていたようです。水戸藩では、開国の荒波が押し寄せる波乱の幕末期に中堅や若手の藩士たちに^{ちゆうけん}擁立されて水戸藩主になった徳川齊昭が、^{なりあき}外からの圧力

に翻弄^{ほんろう}されていく日本や水戸藩を立て直さんとする改革者として時代の表舞台に押し出されてきました。改革をめざす若手藩士との一体感が残したものが、全国的に珍しい藩士たちの「写実的な」肖像画集です。斉昭は自らの肖像は、水戸詰め^{みづうけ}の藩士萩谷^{はぎのや}蕓^{うき}喬^{きょう}に描かせました。また藩士たちの肖像は江戸詰め^{えどづめ}が中心の藩士内藤^{ないとう}業^{なり}昌^{まさ}に多くの肖像画を描かせました。それぞれの立場で、画の達者な藩士を「絵師」として後世に画稿を含む多くの肖像画を残しました。ここでは、藩主斉昭像を中心に紹介します。

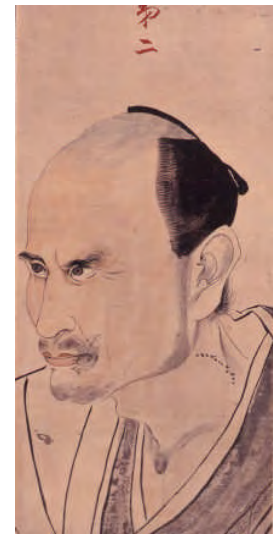


徳川斉昭自画賛 徳川斉昭筆

松戸市戸定歴史館蔵^{とじょう}

第3章 写実的表現への道筋一人柄を写せ！されば、「生き写し」の鏡を一

肖像画がさまざまな制約から解放されて、写実性を帯びるようになったのは、江戸時代後半です。江戸南画^{そうすいたにぶんちやう}の総帥谷文晁^{やふみあき}は、肖像画について「形だけおって似ていれば良しとするのではなく、意（人柄）を写すことが大切」（『文晁畫談』^{がだん}）と説いています。その人らしさ、精神の似姿を写し取ることを主張しました。田原藩士^{わらな}の渡辺^{わたべ}畢山^{へいざん}は、肖像画^{けつさく}の傑作を何点も残しました。畢山は画技の精進と共に、蘭学を学び、西洋画法^{いんぎふ}の陰影法により、立体的に肖像を表現しました。また、周辺の人々の記録により、オランダより伝わったとされる「写真鏡（カメラオブスキュラ）」を使用したと考えられる作品が何点かあります。この道具は寛政年間以降、大槻玄沢^{おおいつきげんたく}や司馬江漢^{しばこうかん}の著書にも登場します。ここでは道具を使った写実的表現方法の考察を中心に作品を紹介します。



重要美術品 佐藤一斎像

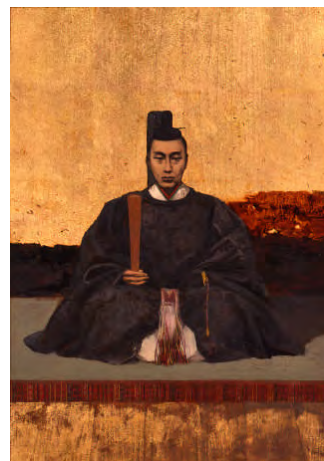
（第二稿）渡辺畢山筆

第4章 写真と肖像画—歴史の一瞬を切り取るということ—

幕末期、写真機の登場で肖像画のあり方が大きく変わりました。斉昭の七男の徳川慶喜^{としのぎ}は将軍であった期間が一年に満たずに政権を返上したため、没後御用絵師により描かれる将軍としての肖像画が残っていません。しかし、慶喜は将軍就任前から自らがモデルとなり多くの写真を撮らせています。写真による権力者のイメージ形成を真剣に考

えたのです。

明治時代になると、明治天皇の肖像画が写真から何度か制作されました。肖像画が写真にすぐにとって代わられなかったのは、当時の写真は小さく、また^{ないうしろ}褪色が著しいなどの課題があり、綺麗な色を残すには絵の具で描く肖像画（油彩や日本画）が求められたためです。写真をもとに人物を描くことで肖像画は新たな活路を見出したのです。ここでは写真で写された瞬間の顔が、肖像イメージの出発点となった作品を紹介します。



徳川慶喜像 川村清雄筆

徳川記念財団蔵

- | | |
|-----------------|--|
| 講演会 | 演題「肖像画の成立と展開」
日時 3月4日（日）午後1時30分～3時30分
会場 当館 講堂
講師 守屋 正彦 氏（筑波大学教授）
定員 200名（先着順・要入館券） |
| ミニ講演会 | 演題「徳川斉昭と三名君－真田幸貫・松浦静山・大関増業－」
日時 2月12日（日）午前10時～11時
演題「徳川慶喜のメッセージ－肖像写真の活用－」
日時 3月17日（土）午前10時～11時
会場 当館 講堂（要入館券）
担当 学芸課長 永井 博 |
| ミニ講座 | 第1回「様々な肖像画」
日時 2月19日（日）午前10時～11時
第2回「徳川斉昭と水戸藩士の肖像」
日時 2月26日（日）午前10時～11時
第3回「肖像画の描き方」
日時 3月11日（日）午前10時～11時
会場 当館 講堂（要入館券）
担当 主任研究員 原口 知武 |
| 展示解説 | 日時 2月18日（土）・3月18日（日）
午前11時～・午後1時30分～
会場 展示室（要入館券）
担当 主任研究員 原口 知武 |
| よろいかぶと体験 | 日時 3月3日（土） 午前10時～12時
会場 当館 講堂
定員 先着順 定員30名（小・中学生対象） |
| ミニ掛軸と
はんこづくり | 日時 3月10日（土）午前10時～12時
会場 当館 講堂
定員 先着順 定員20名 |

道路航空写真（空中写真）

—昭和 50 年前後の県内主要路線の上空撮影写真—

「道路航空写真（空中写真）」は、平成 20 年度行政文書定期移管（平成 20 年 7 月 26 日）の際に総務部総務課を通じて引き渡しを受けた 36 冊の写真帳です。大きさは縦 29.0cm，奥行き 29.8cm，厚さ約 7.0cm で，1 冊におよそ 90 枚のモノクロ航空写真と撮影路線を示す地図が綴られており，全体で 3,271 枚の写真と地図 47 葉からなります。

表紙は紺色で，元の表題（タイトル）を示す「空中写真」と，撮影された路線名，撮影年月，撮影縮尺，発注者茨城県の名称が，金文字で印刷されています。函の背表紙には，長期文書を示す朱色のラベルが貼付されており，それには保存期間（未記入），課名（土木部道路維持課），整理番号（59-1～59-36），簿冊名（空中写真，撮影路線名），文書発生年度（昭和 45 年度～54 年度），廃棄予定年月日（平成 20 年 4 月又は未記入）が記されています。

「空中写真」とは，飛行体から撮影した写真を指しますが，当館ではより一般的呼称の「道路航空写真」として登録しました。また，整理番号の 59-**は，茨城県文書等整理保存規程（昭和 59 年茨城県訓令第 19 号）の成立と関係があると思いますが，詳しくは不明です。

写真縮尺は 1:6,000 で，上空約 900m から路線に沿って前後が重なり合うように撮影されています。これらにより，およそ 30 年前の茨城県内の路線や沿線の集落，土地利用状況を知ることができます。この間に本県の開発は著しく進んでおり，その前後を比較するためにも貴重な資料であるといえます。写真帳は現在，当館閲覧室にて公開されていますので，是非ご覧ください。撮影データについては目録（[「道路航空写真」.xls](#) 41KB）をご参照いただければ幸いです。



36 冊の道路航空写真



表 紙



さて、茨城県内には国道 6 号、国道 50 号、国道 51 号等の幹線国道がありますが、写真帳では国道 118 号 (59-1, 59-2), 国道 293 号 (59-3, 59-4), 国道 355 号 (59-5) の 3 路線が残されています。右下は、そのうち国道 118 号の起点にあたる水戸市三の丸 1 丁目交差点を上空から撮影したものです。写真中央部に弘道館、茨城県庁 (現在の三の丸庁舎), 左上部に水戸駅が写っています。

その構内には転車台も確認できます。蒸気機関車はすでに退役していましたが、その向きを変えるための設備で、かつて機関庫があった名残です。線路が放射状に並んでいることが確認できると思います。左下部の黒っぽい筋状に見えるものは樹木で、かつての水戸城の濠割に沿う形で生い茂っています。かつての水戸城跡には、現在茨城県立水戸第一高等学校、水戸第三高等学校、水戸市立第二中学校、茨城大学教育学部附属小学校があります。下部を貫く川は那珂川で、中央が 1931 年 (昭和 6) 架橋の水府橋、左側が水郡線鉄橋です。写真からわかるように、那珂川はここで湾曲しており、周辺の根本町、青柳町、枝川町はたびたび水害によって苦しめられました。



59-1 「国道 118 号線」C1-1

(撮影日: 昭和 51 年 9 月 18 日)



上で述べた国道 3 路線以外は、すべて県道の航空写真です。県道は道路法により主要地方道と一般県道に分類されますが、写真帳では前者が 24 路線、後者が 98 路線収録されています。主要地方道とは広域交通を担う幹線道路として位置付けられたもので、一般県道よりも重要性の高い道路であると理解していただければよいと思います。

では、一般県道小泉・水戸線に沿って那珂川を下ってみましょう。涸沼川と合流し、太平洋へ注ぎ出す那珂川河口地点を撮影したものが右の写真です。写真上部が大洗側、中央部より下が那珂湊の市街になります。対岸の街は 1956 年 (昭和 31) 架橋の海門橋によって結ばれていま



59-24 「一般県道小泉・水戸線」C1-2

した。写真左上に見える橋ですが、当時はまだ有料で、無料化されたのは 1980 年（昭和 55）2 月のことです。中央部の樹木に囲まれた場所は、^{いひんかく} 貧賓閣の跡地につくられた湊公園です。^{いひんかく} 貧賓閣は、1697 年（元禄 10）に徳川光圀によって建設された建物で、水戸藩主らによってしばしば酒宴や詩歌の会が催された場所です。1864 年（元治 1）の元治甲子の乱で焼失した後、1897 年（明治 30）に湊公園として整備されました。右下に見えるのは 1913 年（大正 2）に勝田との間に開業した湊鉄道の那珂湊駅です。現在のひたちなか海浜鉄道湊線になります。

この写真から、1977 年度に水揚高約 6 万トン、その額 60 億円に達し、漁業基地として繁栄していた那珂湊の街が、建物等によりすきまなく埋め尽くされている様子がわかります。

（撮影日：昭和 49 年 7 月 31 日）



最後に、一般県道水戸・茨城線の路線写真から、偕楽園を眺めてみます。この路線は、かつて国道 6 号として千波方面から大工町を通り、水戸駅前を抜け、北をめざす幹線道路でした。東側にバイパスとして 6 号が開通し、これまでの路線が格下げとなったものです。右下に見える湖は千波湖で、湖畔にはレジャー施設として建設されたレークランドが見えます。ここには飛行機も展示されていて、ここではじめて機体を見たという人も多いのではないのでしょうか。中央部の黒っぽい部分が偕楽園公園で、中央部南寄りの建物は好文亭です。左上には歴史館が写っています。当館は県立水戸農業高等学校の跡地に建設され、昭和 49 年 9 月 3 日に開館しました。写真は同年の 7 月 31 日に撮影されたものですから、開館準備が急ピッチで進められた頃のものであります。今年で開館 38 年目を迎え、現在は緑豊かな敷地を誇りますが、当時は樹木が疎らで、1 本 1 本が小さかったことも確認できます。



59-24 「一般県道水戸・茨城線」C3-1



今日ではインターネット等を利用することで、上空から撮影した写真も容易に見ることができるようになりましたが、ここで紹介した写真を手にしていただき、ちょっと昔のことを調べることも大変興味深いことなのではないのでしょうか。写真は比較的鮮明で、実に多くの情報を得ることができます。

他にも本県の状況を知るための写真資料として、昭和 44 年撮影の「茨城県全域航空写真」（撮影縮尺 1:15,000、合計 2,268 枚）も公開しております。あわせてご覧いただければ、幸いです。

（史科学芸部行政資料課 首席研究員 富田 任）

整理番号	表 題	路 線 名	撮影年月	西暦	写真枚数	標定図
59-1	道路航空写真(一)	国道118号線	昭和51年9月	1976	108	1
59-2	道路航空写真(二)	国道118号線 一般県道袋田停車場四度ノ滝線 主要地方道大子黒羽線 主要地方道大子馬頭線	昭和51年9月	1976	95	1
59-3	道路航空写真(三)	国道293号線	昭和51年9月	1976	104	1
59-4	道路航空写真(四)	国道293号線 主要地方道烏山御前山線 一般県道玉川村停車場線	昭和51年9月	1976	99	1
59-5	道路航空写真(五)	国道355号線 主要地方道石岡潮来線 主要地方道竜ヶ崎潮来線 主要地方道古河加須線	昭和50年7月	1975	96	4
59-6	道路航空写真(六)	主要地方道下館筑波線 主要地方道取手筑波線 一般県道真岡協和明野線	昭和46年11月	1971	118	1
59-7	道路航空写真(七)	主要地方道笠間緒川線	昭和52年10月	1977	107	2
59-8	道路航空写真(八)	主要地方道取手筑波線 一般県道真岡藤代線 一般県道谷田部藤代線 一般県道長沖藤代線 一般県道取手谷中線	昭和45年12月	1970	111	1
59-9	道路航空写真(九)	主要地方道筑波益子線 一般県道西小塙石岡線 一般県道東山田岩瀬線 一般県道真岡岩瀬線	昭和48年11月	1973	95	1
59-10	道路航空写真(十)	主要地方道塙大津港線 主要地方道高萩里美線	昭和52年10月	1977	117	2
59-11	道路航空写真(十一)	主要地方道土浦境線 一般県道小野土浦線 一般県道土浦停車場線	昭和48年11月	1973	62	1
59-12	道路航空写真(十二)	一般県道岩井野田線 一般県道中里岩井線 主要地方道土浦境線 一般県道伏木岩井線	昭和46年11月	1971	97	1
59-13	道路航空写真(十三)	主要地方道石岡笠間線 一般県道八郷稻田線	昭和48年10月	1973	102	1
59-14	道路航空写真(十四)	主要地方道石岡下館線 一般県道下妻真壁線 一般県道沼田下妻線	昭和48年11月	1973	96	1
59-15	道路航空写真(十五)	主要地方道水戸鉾田佐原線 一般県道子生茨城線 一般県道大竹鉾田線 一般県道大貫延方線 一般県道大賀牛堀線	昭和50年7～8月	1975	105	1
59-16	道路航空写真(十六)	主要地方道竜ヶ崎潮来線	昭和45年12月	1970	72	1
59-17	道路航空写真(十七)	主要地方道大宮御前山線 主要地方道大子美和線 一般県道日立常陸太田線 一般県道下檜沢上小瀬線 一般県道里野宮日立線	昭和52年9～10月	1977	101	2
59-18	道路航空写真(十八)	主要地方道北茨城大子線	昭和52年10月	1977	77	1
59-19	道路航空写真(十九)	一般県道明野間々田線 主要地方道前橋古河線 一般県道東野田古河線 一般県道野木古川線 一般県道西関宿栗橋線 一般県道幸手境線	昭和46年11月	1971	118	1
59-20	道路航空写真(二十)	一般県道谷田部明野線 一般県道藤沢荒川沖線 一般県道島名福岡線	昭和46年11月	1971	104	1
59-21	道路航空写真(二十一)	一般県道戸崎上稲吉線 一般県道三妻停車場線 一般県道飯岡石岡線 一般県道石下停車場線	昭和48年11月	1973	55	1
59-22	道路航空写真(二十二)	一般県道大山江戸崎線 一般県道新川江戸崎線 一般県道上新田木原線	昭和45年12月	1970	71	1
59-23	道路航空写真(二十三)	一般県道小野牛久線 一般県道谷田部牛久線 一般県道飯野牛久線	昭和45年12月	1970	70	1
59-24	道路航空写真(二十四)	一般県道大洗公園線 一般県道小泉水戸線 一般県道中石崎水戸線 一般県道長岡水戸線 一般県道水戸茨城線	昭和49年7～8月	1974	108	1
59-25	道路航空写真(二十五)	一般県道茨城友部線 一般県道長岡大洗線 一般県道石川袴塚線 一般県道中河内青柳曲尺手線	昭和49年7～8月	1974	103	1
59-26	道路航空写真(二十六)	一般県道牛渡馬場山土浦線 一般県道長高野筑波線	昭和48年11月	1973	61	1
59-27	道路航空写真(二十七)	一般県道水沼磯原線 一般県道山根大津港線 一般県道里見南中郷停車場線 一般県道上君田大能線	昭和53年11月	1978	73	1
59-28	道路航空写真(二十八)	一般県道勝倉枝川線 一般県道勝田停車場線 一般県道大甕停車場線 一般県道平潟港線 一般県道日立港線 一般県道西山荘線 一般県道高萩友部線 一般県道小場常陸大宮停車場線	昭和54年11月	1979	65	8
59-29	道路航空写真(二十九)	一般県道鹿田玉造線 一般県道馬渡水戸線 一般県道繁昌牛堀線 一般県道矢幡潮来線 一般県道下入野水戸線	昭和50年7～8月	1975	110	1
59-30	道路航空写真(三十)	一般県道石岡田伏土浦線 一般県道穴倉玉里線	昭和48年10～11月	1973	89	2
59-31	道路航空写真(三十一)	一般県道八郷筑波線 一般県道東山田岩瀬線 一般県道横塚真壁線	昭和48年11月	1973	84	1
59-32	道路航空写真(三十二)	一般県道茨城笠間線 一般県道上吉影岩間線 一般県道羽鳥停車場江戸線 一般県道堅倉小川線	昭和48年10～11月	1973	99	1
59-33	道路航空写真(三十三)	一般県道宗道古河線 一般県道境間々田線 一般県道皆葉崎房線	昭和46年11月	1971	78	1
59-34	道路航空写真(三十四)	一般県道結城停車場線 一般県道下妻真壁線 一般県道赤浜筑波線 一般県道下妻停車場線 一般県道山王下妻線	昭和48年11月	1973	74	1
59-35	道路航空写真(三十五)	一般県道藤代板戸井岩井線 一般県道守谷流山線 一般県道谷井田稲戸井停車場線 寺原停車場線	昭和45年12月	1970	92	1
59-36	道路航空写真(三十六)	一般県道稲田友部線 一般県道小見笠間線 一般県道小野土浦線 一般県道富谷稲田線 一般県道南指原岩間停車場線	昭和49年8～9月	1974	83	1

東日本大震災による当館の被災と復旧

昨年３月１１日の東日本大震災は、茨城にも大きな爪痕を残しました。

本県では、午後２時４６分発生 of 東北地方太平洋沖地震（M9.0）で震度６強を、同３時１５分に発生した茨城県沖を震源とする余震（M7.7）では震度６弱を記録するとともに、沿岸には津波が押し寄せ、県内全域にわたり様々な被害を被りました。

当館の所在する県都水戸市も、最大震度６弱を記録し、本来災害対策の拠点となるべき市役所や消防本部は、庁舎が使用不能に陥りました。また、この時期は例年開催されている「水戸の梅まつり」期間中でもあり、会場の日本三名園のひとつに数えられる偕楽園や水戸藩藩校で国指定重要文化財の弘道館も、観光客で賑わう中、建物や庭園に大きな損傷を受けました。

当館では梅まつりに合わせ、特別展「頼重と光圀—高松と水戸を結ぶ兄弟の絆—」を開催中で、普段より多くのお客様が入館する中、地震に見舞われました。



地震直後の事務室



破損した土器(展示室)

地震により電気、水道等のライフラインは寸断し、事務室をはじめほとんどの部屋で、机上や書架から文書や資料が落下し床に散乱しました。幸いにも、誘導された来館者、職員ともに怪我などの人的な被害はありませんでしたが、特別展は常設展とともに中止となり、文書館部門も合わせ全館休館を余儀なくされました。

余震の続く中、震災当日は屋外避難場所となった管理棟玄関前で解散し、翌１２日から復旧、開館に向けた業務を開始しました。まず行ったのが、施設内外の被災状況の確認です。

博物館部門では、エントランスホールや展示室で天井灯の落下が計１７箇所見られました。展示物は、常設展の大型土器の破損をはじめ、多数の資料が落下・転倒しましたが、特別展のために外部から借用していた資料が無事だ



落下・散乱した行政文書（文書整理保管庫）



崩落した玄関廂（旧水戸農業高等学校本館）



内壁の剥落（旧水海道小学校本館）

ったのは、まさに不幸中の幸いでした。また、考古収蔵庫や民俗収蔵庫では、壁や柱に被害を受けたほか、収蔵物も土器、陶器、ガラス器等に破損が見られました。

文書館部門の被害としては、閲覧室の資料検索システムのダウンと文書・図書等資料の落下が挙げられます。特に資料の落下・散乱はひどく、「本館第一書庫」の約8千点をはじめ、行政文書の補修・整理を行っている「文書整理保管庫」、館外で文書保管庫として使用している「三の丸倉庫」、県庁移転時に収集した行政文書を整理している「三の丸庁舎」

（旧茨城県庁）の3か所を合わせると、その量は実に2万点を超えるものでした。

屋外に点在する施設にも様々な被害が見られました。当館は、那珂市へ移転した県立水戸農業高等学校の跡地に建設されましたが、そのシンボルとして敷地内移築により残された「旧水戸農業高等学校本館」は、午後3時15分の余震の際、本震後に巡回をしていた職員の目の前で、武家造風の玄関廂部分が崩れ落ちました。

また、明治時代に建築され、常総市より移築された擬洋風建築の「旧水海道小学校本館」（県指定文化財）は、外部に大きな損傷こそ見られなかったものの、屋内のあちこちで土壁が剥落し、館内

で展示していた近代教育資料の公開や、米スタインウェイ&サンズ社のグランドピアノ（1865年製、日本に洋楽が導入された明治維新期のピアノの一台）を用いたイベントなどが開催できなくなりました。そのほか、潮来市より移築された近世の直屋型の農家「旧茂木家住宅」（県指定文化財）や、庭園敷地の一角に建てられた茶室などでも、建物の内外に損壊が確認されました。

停電や断水は、県内の多くの地域で数日間にわたり続きました。当館では、12日午後には電気、水道が復旧しましたが、本格的な復旧に向けて問題となったのは、職員の通勤手段の確保です。JR常磐線をはじめとする鉄道など公共交通機関の不通と、ガソリン不足で自家用車の使用に支障が生じたことにより、通勤困難者が発生したのです。これには、自転車の利用や自家用車の乗り合わせなどで対応し、翌週半ば15～16日頃には、ようやく職員の勤務態勢が整いました。

幸いにも、本館の建物自体に大きなダメージは見られませんでした。そのため、内部施設・設備の復旧、展示物や収蔵資料の修繕を中心に開館に向け作業が行われました。大量の文書や図書類が落下した書庫や文書保管のスペースでは、散乱した資料の整理、再配架などで復旧に2週間を要しましたが、資料の損傷被害はほとんどありませんでした。

被災から43日目の4月23日（土）、当館は、ようやく本館展示と閲覧業務の再開に漕ぎ着けることができました。また、損傷の大きかった屋外施設についても、旧水海道小学校本館が修復工事を終え、7月5日（火）から公開を再開するとともに、崩落した玄関廂部分を修復した旧水戸農業高等学校本館や茶室など、いずれの施設も、現在は震災前と同じように利用が可能となっています。



昔から「天災は忘れた頃にやってくる」との言葉がありますが、今回はまさにそれを思い知らされた大震災となりました。この経験を無駄にしないよう、防災対策を怠らず、これからも「皆さまに安心して利用していただける歴史館」を心がけてまいります。

修復成った旧水戸農業高等学校本館

（史料学芸部行政資料課 木村 秀弘）

トピックス

平成23年度後半の展示・行事から

ユネスコ無形文化遺産登録記念展「結城紬」―世界に誇る日本の技―

8月27日(土)～10月2日(日)

9月10日(土)に、茨城県繊維工業指導所の担当者による展示解説、結城紬の製作工程の実演、そして製作工程の体験が行いました。

結城紬の歴史、繭と真綿と手紬糸、そして結城紬の着物や反物などについて、参加者は熱心に話を聞いていました。

参加者からは「反物一反つくるのに、繭2000～2500個分が必要になると聞いてびっくりしました」、「多くの手間がかかるのですね」、「よく見ると細かい柄が施されているのですね」などの声がありました。



特別展「妖怪見聞」

10月15日(土)～11月27日(日)

初日は雨模様でしたが、開館と同時に多くの方が来館されました。

片手に妖怪の本を持って展示品と見比べたり、親子で鬼や天狗などの話をしたりして楽しそうに見学していました。

鬼や天狗の像の前では親子が「早く寝ないと鬼が出てくるよ」「こわいよお。でも、強そうでかっこいいなあ」などと話をしていました。人魚のミイラと伝えられたものの前では「(人魚は)綺麗な女性だけでなく、男の人魚も居るんだ」などと感想を話していました。



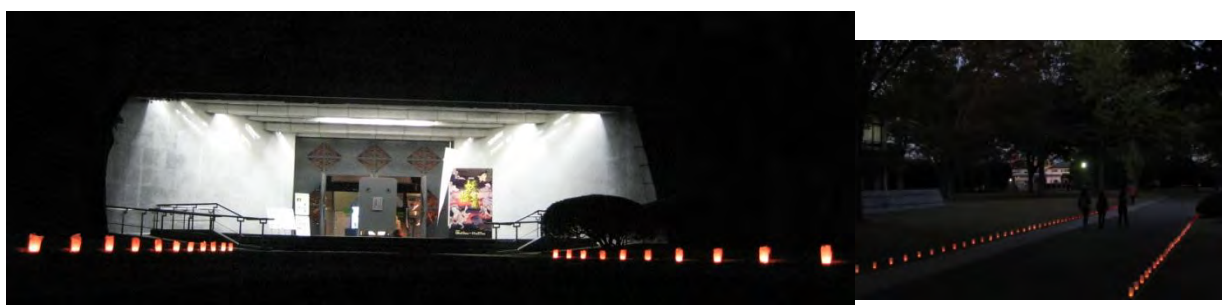
10月30日（日）は関連行事として、「妖怪かるたで遊ぼう」を行いました。歴史館ボランティアも読み手として参加しました。

「ぬらり ひょんと 現れる妖怪の親玉」「手長 足長 伝説の巨人」などの札を読まれると、参加した子どもたちは、「この妖怪のことか」など声を上げて札を取っていました。

「いろいろな妖怪が分かって面白かった」「自分の知らない妖怪がたくさんいた」などの声がありました。



また、10月28日（金）、11月4日（金）、11日（金）には、妖怪ナイトミュージアムとして、本館前をキャンドルで灯し、午後8時まで延長開館しました。いつもと趣の違う歴史館を味わいました。（入口には「ぬりかべ」がお出迎え！）



11月20日（日）には、「妖怪を探そう！ウォークラリー」を行いました。

鬼や天狗、ぬりかべなど7つの妖怪にかかわる問題を解きながら館内外をめぐりました。参加者たちは、強い者がもっと強くなるという意味の「鬼に〇〇〇〇」ということわざ、ぬりかべの弱点はなどの問題を家族や友達と考えながら解いていました。

「難しかったけれど、鬼や天狗などのことについて、よく分かった」という感想が聞かれました。



展示を見逃してしまったという方は図録「妖怪見聞」（1,000円で販売中）を是非ご覧下さい！

次回特別展「肖像画の魅力ー歴史を見つめた眼差しー」図録は開催にあわせ2月11日（土）より1,000円で販売します。（展示内容については[展示紹介](#)をご覧ください。）

北関東3館連続シンポジウム「北関東の戦国時代ー戦国大名の登場ー」 10月8日（土）

本シンポジウムは、昨年3月の北関東自動車道の開通を記念して行いました。当日は晴天に恵まれ、研究者や熱心な歴史ファンなど、140名を超える参加者がありました。

当日は、基調講演・報告に続いて討論も行われ、会場では白熱した議論が展開されました。参加された方からは、これまで着目されることの少なかった北関東における戦国時代を取り上げたことに対して、「分かりやすく良かった」「大いに勉強になった」といった声をたくさんいただきました。これからも当館は、皆様の声を大切にしながら、魅力的で質の高い講座やシンポジウムの開催に努めて参ります。



シンポジウムの様子

歴史館いちょうまつり

11月3日(木)～27日(日)

園内のいちょうの黄葉を愛でながら、イベントを楽しむまつりとなりました。イベントは「爆笑・演芸名人会」「6代目宝井馬琴氏による講談」「錦秋の調べ ソプラノ&オーボエデュオコンサート」「映画会」など。

「錦秋の調べ」では、ソプラノの透きとおるような歌声やオーボエの音色に深まりゆく秋の情感に包まれるひとときを過ごすことができました。



いちょう並木



錦秋の調べ
ソプラノ & オーボエデュオコンサート

行政資料講座

1月14日(土)



当館では、古文書や行政文書の収集、整理、研究を進めています。そうした文書館的機能の紹介と所蔵資料を活用した行政資料講座「所蔵資料からみる千波湖の歴史」を行いました。

参加者は、文書館的機能や千波湖の干拓に関わる資料、地図などについて研究員の説明をうけ、昔の千波湖が広がっていた地点と現在の地図を比べるなどの作業もしました。

参加者からは、「身近な地域の歴史について知る機会となり面白かった」「多くの資料

を紹介してもらい参考になった」「文書館の機能について勉強になった」などの感想がありました。

歴史館ボランティアの活動記録

当館の様々なイベントに参加・活動をしています。

1月15日（日）には、ボランティアによる
ちょっと昔のあそび「お正月あそび」を開催。
カルタとり、ふくわらいとコマあそび等も実施し、
子どもたちとふれあいました。



各行事などについてのお問い合わせは、
茨城県立歴史館 教育普及課 電話029-225-4425
または、ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。